



廣瀬 雅洋氏

磯村 安倫氏

杉本 好弘氏

座談会

BCP(事業継続計画)対策について

平成28年に『香川県中小企業BCP優良取り組み認定事業所』に認定された(株)11ネット・インシュアランスのBCP対策の具体的な取り組みについて聞く

【出席】

磯村 安倫氏

(株)11ネット・インシュアランス
代表取締役

廣瀬 雅洋氏

(株)11ネット・インシュアランス
部長 (高松第9支部)

【司会】 広報・情報化委員会

杉本 好弘氏

ジュエリー&メガネ輪 RIN
代表取締役 (中讃第3支部)

取組みのきっかけ

司会 今回は、BCPの取組み事例をお聞きしたく、(株)11ネット・インシュアランスに訪問させて頂きました。さっそくですが、BCP対策への取組みはいつ頃から始まったものですか。またそのきっかけについてお聞かせください。

磯村 東日本大震災直後に、保険代理業務をしている知人から、被災地での仕事が入り不足の状態なので手伝ってもらえないかと問い合わせがあったのがそもそものきっかけです。被災から2カ月後のことでしたが、BCPは千年に一回の大震災ですから、震災後の現場に入るとは、保険代理店としての義務であると思っただけです。迷わずに返事を出かけて行きました。福島が倒壊していました。地震発生から津波の到来まで30分ほどの時間があつたので、そのビルから50mほど離れた所の高台に逃げた人は全員が助かったそうです。要するに、引き潮が始まった時点で津波が来ることを予測して逃げた人は無事だったわけです。この判断が命を分けたのです。現地で様々な話を聞きましたが、「生き残るために必要なものは知識だけでなく、先人が経験から得たもの」、よくおばあさんの知恵袋とかいわれますが、その知恵が大事なことがわかりました。それがあれば、被災時に適切な対応ができ、人が災害から命や財産を守ることが出来る。被災地の経験からBCP対策への取り組みを始めました。ですから、11ネット・インシュアランスの取り組みは東日本大震災から始まりました。

災害から命や財産を守るのは 知識ではなく知恵

司会 被災地で災害時のいろんな話を聞かれたと思いますが。

磯村 いろんな話を聞きましたが、とくに印象に残ったのは地元金融機関の話です。地震後、職員が津波が来るから逃げようとしたそうですが、支店長の「職場を離れるな」という命令で死者が出ており、損害賠償を請求されています。そのときの支店長の判断が間違っているかどうかは分かりませんが、少なくともこうなったらこうしようという基準があれば、支店長だけの責任ではないと私は思っています。以前から、災害に対してある程度の方向性を示すことができていれば、違った判断ができたかもしれません。

司会 助かった命もあれば、そうでなかった命もあったということですね。このお話は、なぜ企業にBCP対策が必要に繋がるものと思われませんか。

磯村 その通りです。企業には必ず社員の安全を守ることと、賃金支払いの義務があります。もしそれができなかつたら債務不履行になるわけです。女川での体験からBCP対策の必要性を強く感じ、帰ったらすぐに取り組みを始めなければと決意しました。

司会 手を付けられたのは何からですか。

磯村 社員さんとの情報の共有化です。翌年ですが、当時の営業社員全員(12名)を連れて被災地まで足を運びました。

司会 そこから具体的な取組みが始まったわけですね。

廣瀬 まずは整理・整頓・

清掃に危機管理を入れた3SK活動をコンサルタントの方に依頼して、皆で取り組み、徐々に危機管理体制の整備にまでもっていききました。

磯村 正直、取り組みを始めた頃の社員さんにはなかなか理解してもらえませんでした。何で?の声が結構ありました。福島で残された家族の悲痛な思いをたくさんお聞きしたにも関わらず、それが自分のこととして受け止められなかったからだと思います。残された家族のような悲しい想いをさせたくないという強い気持ちがあったので、根気よく取り組みを続けてきました。

司会 とところでBCPと防災は同じようなイメージがありますが、違いを教えてくださいいただけますか。

磯村 防災は災害を防ぐことで避難時の対応が主ですが、そこまでは一緒です。しかしBCPはそれ以前の、起こる前のことも含めて、どのようにすれば商売上の関係者に迷惑がからないかを考え、いかに早く被災からの復興を目指し、その上で危機をチャンスに変えることではないかと思えます。例えば、東日本大震災では、津波で車が



流され

たため車が

無くて困る人

がたくさん出て

いるだろうからと

事前に生命保険を活

用し積み立てていたそ

の解約金を使い、全国か

ら中古車の手配をし、現地に

提供した企業があります。つまり経営戦略

の一環なのです。

学びと訓練を繰り返し行うことで 意識が変わり、行動が変わる

司会 御社が取り組んでいるBCPの活動にはどのようなものがありますか。

磯村 毎月1回勉強会を行っています。勉強会では必ず避難時の注意や避難方法、場所等が書かれている「地震心得10カ条」を頭に入れてもらいます。万が一地震が発生したときは、壁に貼ってある「地震心得10カ条」を持って逃げることを徹底させています。それから、情報の共有化と避難訓練、毎月1日に安否確認のメールを送り、

どのぐらいの時間で返事が返ってくるかを計り、記録を取ります。意識改革の一環です。

廣瀬 安否確認のメールは代表が手動で送るパターンと、大きな地震のときは自動で一斉に送られるシステムの2つがあります。

磯村 自動のシステムは地震用のプログラムなので、濃霧や台風、大雨等には作動しません。もし地震が発生したとき運悪く私自身が被災したとしても、指示予定時間から15分が過ぎた時点で次の役員が社員への指示を発信することになっています。さらに、そこからも連絡がなかった場合は予め決めている社員がというふうには、順番を決めています。

廣瀬 そういう仕組みはできていますが、それがいざというときにできるかどうかは日々の訓練だと思っています。慣れることがとても重要なので、ルールづくりが終わったら次の段階に進まなければならぬと思います。

司会 ルールづくりは役員だけですか。

磯村 いいえ、全員参加です。お客様を守るのももちろんですが、まずは社員さんを守ります。社員さんの命が守れるから、お客様、そしてお取引先様を守れるのです。
司会 経費については個別に予算を組んで取り組まれたのでしょうか。

廣瀬 最初の初期投資の避難はしごの購入やデータサーバー等が主な経費です。

磯村 例えば本社が被災し、本社にあるお客様の情報が駄目になったとしても、本社以外に3カ所に分けてバックアップを取っ



ておりますので早期のデータ復旧が出来るように備えております。バックアップの設置場所の選定は大事です。統計データから考え安全な場所を選んでおります。

司会 個人的にですが、一番の関心事は社員の皆さんをどう巻き込んでいったのかにあります。先ほど、勉強会などというお話でしたが、意識を変えることはある意味大変ではないかと思うのですが。

磯村 それは確かにあります。とくにここ香川は災害の少ないところ、安全なところという過信がどこかにありますから、それをどうするかです。

廣瀬 社員さんと一緒にやっていくこと、全員に参加してもらおうことが大事だと思います。どうすれば一緒に取り組んでもらえるかを考えました。その一例ですが、我が社では毎年会社行事として花見を行っております。そこで備蓄品のビスケットやパン、水を入れるだけで焚けるお米

の試食などをします。花見というイベントを利用して、備蓄品の実際の味や感触などを体験してもらいます。ま

た、9月の避難訓練時には、訓練の様子をずつ

と動画を撮っています。訓練終了後にその動画を全員で見、良かったこと、悪かったことを改めて確認します。男女の目線の違いなどもよくわかるので、社員をできるだけ巻き込み、皆で取り組んでいくことが意識向上に繋がると思っています。

磯村 座学ですと頭では理解できていても、実際にはなかなか動けないものです。経験が大事なので、皆で取り組んでいながら少しずつ知識が知恵に変わっていきやすいと思っておりますし、またそれが大切だと思っております。

廣瀬 AEDの体験機をお客様の会社へ持参し、使い方の説明などの講習も行ってあります。花見のときには社員だけでなく取引先様やゲスト様などの参加者の方にも実際にAEDを使ってもらい体験してもらいます。

我が社では全社員が日赤の救急法救急員の資格を取得してい





儀村 困ったこと
としては時間がか
かることです。訓練
の時間や考える時
間、経費的にも多少
はかかります。
廣瀬 デメリット
や困ったことはあ

ますので、AED使用の体験が初めての参
加者の方をサポートできます。自分でやっ
てみて上手くいかなかったところをアドバ
イスしてもらおうと、自信になりますし、A
EDが必要な場面に出合ったとしても、慌
てずに対処できるようになります。やはり
体験です。体験が出来る機会をできるだけ
つくろうと考えています。
司会 ところで、取り組んで良かったこと、
困ったことについてお聞かせください
儀村 取り組んで良かったことは、まず皆
が丁寧に生きるといふか、命の大切さを
しっかりと受け止めるようになったことで
す。お客様や地域に対しては、守らなけれ
ばならないものをどう伝えるかを重要な課
題と考え、お客様や地域をどう巻き込んで
いくかを常に考えています。
廣瀬 我が社は保険代理業ですが、現在は
自社を企業のリスク対策業として位置づ
け、お客様対して良いパートナーであるよ
う志しています。このような取組みを進め
る中で、お客様に対して弊社の想いやお客
様の業界を取り巻く最新の情報をきちんと
お伝えしていこうという気持ちの変化があ
りました。これが良
かったことです。

まりないように思います。強いてあげると
したら、代表がつくって、つくったからも
う大丈夫だと代表だけが満足したら困りま
す。何か起こったときに、そこにいる全員
がその通りにできるかどうか、それが肝心
なので、興味関心を持つてもらって、マニユ
アル通りにできるようにするのが一つのポ
イントになるように思います。要するに繰
り返しです。
司会 わかりました。ところで、今年の香
川丸亀国際ハーフマラソンの会場で見かけ
た、少し変わった仮設トイレは御社が提供
したと聞いたのですが。
廣瀬 そうです。BCP対策への取組みの
中で、保険だけで全てを対策できるもの
はないと考え、保険以外のBCP対策を行
う別会社を立ち上げました。その商品の一
つがほぼ紙で出来た仮設トイレです。
司会 なぜ仮設トイレの販売を？
廣瀬 災害のときに、水が止まると飲み水
に困りますが、トイレの水も困るのです。
災害時の避難場所でのトイレ対策を考えて
いたとき、衛生問題解決のために開発され
たほぼ紙でできた仮設トイレとの出会いが
ありました。現在、我が社はこの『ほぼ紙ト
イレ』の中・四国の販売店として、県や地域
の自主防災訓練に『ほぼ紙トイレ』を展示
し、防災意識の向上の為の活動を行ってお
ります。
香川丸亀国際ハーフマラソンでは毎年大
勢の参加者がトイレに困っているという話
を聞き、寄贈の形で提供させていただきま
した。実際に選手の皆さんに使用しても
らった全国初めてのケースとなりました。

使用後の感想は「紙
だとは思わなかつ
た」「綺麗だった」
そんな声が多く寄
せられています。

このトイレの利
点は素材が紙と軽
いので任意の場所
に容易に移動し設
置ができることと、
コンパクトに収納
ができることです。1台で50人が1週間
は使える容量があるので、水が復旧するま
での緊急手段として活用できます。使用後
はバキューム処理をして焼却処分できるの
で後始末も簡単です。

司会 最後にBCP対策は何から始めれば
よいか、アドバイスをお願いします。
廣瀬 事業継承も災害も含め会社の中で一
番守らなければならないのは何か。会社が
被災して潰れたらお客様にどれだけの迷惑
がかかるか。また、社員さんの住宅や会社、
工場はどのようなリスクの場所にあるか。
それらを分析し、自社を見直すことがまず
大切なことだと思います。

これらのことを社員さんと共に考え、行
動すれば絆が強くなり、愛社精神も大きく
なるのではないのでしょうか。
司会 よくわかりました。本日はどうもあ
りがとうございました。

